

## 水稻の作柄に関する委員会（平成21年産第3回）の意見

- 1 9月15日調査以降の気象の推移・予報等からみた作柄への影響
  - (1) 8月中旬以降、日照は、おおむね全国的に回復し、平年並みか多照で推移している。

平均気温は、8月下旬から9月中旬にかけて、北日本及び東日本では平年を下回り、西日本ではおおむね平年を上回り推移している。

今後の天候の見通し（9月25日発表の気象庁1か月予報）では、東日本と西日本の気温は平年より高く、日照時間は全国的に平年並みに推移すると予測されている。
  - (2) 本年の水稻は、7月中旬から8月上旬にかけての日照不足等により、もみ殻の大きさ等への影響が懸念されるが、このような気象の予報からすると、今後の粒の肥大・充実はおおむね順調に進むと考えられる。
- 2 次期の調査（10月15日現在）に当たって留意すべき事項
  - (1) 7月中旬から8月上旬にかけての日照不足等が、登熟や品質へ及ぼす影響に留意する必要がある。

なお、全もみ数が少ない地域においては、9月以降の好天による登熟への補償作用の程度を見極める必要がある。
  - (2) 8月下旬以降、北海道等気温が低めに推移している地域においては、収穫の遅延等による登熟や品質への影響を見極める必要がある。
  - (3) 稲体が軟弱徒長傾向のため、倒伏、ウンカ、カメムシ等の病害虫による登熟や品質への影響に留意する必要がある。
  - (4) 今後の台風及び集中豪雨による作柄・品質への影響に留意する必要がある。

### 【参考】

水稻の作柄に関する委員会委員・専門委員

- |        |           |                                      |
|--------|-----------|--------------------------------------|
| (座長)   | 染 英 昭     | 財団法人中央果実生産出荷安定基金協会副理事長               |
|        | 秋 田 重 誠   | 公立大学法人滋賀県立大学名誉教授                     |
|        | 黒 田 栄 喜   | 国立大学法人岩手大学農学部農学生命課程教授                |
|        | 近 藤 始 彦   | 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構作物研究所稲収量性研究チーム長 |
|        | 長 谷 川 利 弘 | 独立行政法人農業環境技術研究所大気環境研究領域主任研究員         |
|        | 丸 山 幸 夫   | 国立大学法人筑波大学大学院生命環境科学研究科生物圏資源科学専攻教授    |
|        | 山 岸 順 子   | 国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科附属農場准教授        |
|        | 渡 辺 典 昭   | 気象庁地球環境・海洋部気候情報課予報官                  |
| (専門委員) |           |                                      |
|        | 馬 場 利 彦   | 全国農業協同組合中央会農業対策部長                    |
|        | 米 本 博 一   | 全国農業協同組合連合会常務理事                      |
|        | 安 藤 勲     | 全国米穀販売事業共済協同組合常務理事                   |